

会 議 録

会議名		令和８年度 第２回小山地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		中央区役所中央６地区まちづくりセンター 電話０４２－７０７－７０４９（直通）		
開催日時		令和８年７月７日（火） １９時００分～２０時４０分		
開催場所		小山公民館 大会議室		
出席者	委 員	１６人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局等	３人（中央６地区まちづくりセンター所長ほか２人）		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	１人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１ 開 会 ２ 議 題 （１）災害時要援護者の支援について ・小山地区支援（案）の検討について（グループワーク） ３ 閉 会		

議 事 録

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

入谷会長のあいさつにより開会した。

2 議 題

(1) 災害時要援護者の支援について

- ・小山地区支援（案）の検討について（グループワーク）

入谷会長から支援（案）作成にかかる経過説明、事務局から資料に基づき説明が行われた後、3グループに分かれて支援案の意見や課題等について、検討が行われた。

<各グループの発表内容>

別紙「小山地区支援案 グループワーク検討結果」のとおり

<質疑応答>

特になし。

<結果>

小山地区の支援案については、本日晒した支援案をベースとして検討を進めていく。

また、次回以降については次のとおりとすることとなった。

- ・支援案を実施するにあたり、被災想定を検討する。
- ・本日の検討結果を基に、支援案に対する課題等を整理する。
- ・支援案を実施するモデル地区を選定していく。

3 閉会

遠藤副会長のあいさつにより閉会した。

以 上

小山地区まちづくり会議委員出欠席名簿

令和8年7月7日開催

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	入谷 利郎	小山地区自治会連合会	会 長	○
2	関口 邦夫	宮下自治会		○
3	徳永 三朗	すすきの自治会		欠席
4	亀田 浩代	すすきの向陽自治会		欠席
5	若井 一朗	向陽町自治会		○
6	丸山 和加恵	久保原自治会		○
7	中島 幸英	自治会法人 氷川町自治会		○
8	岩崎 義之	相模原駅前自治会		○
9	阿部 利和	東第一自治会		○
10	佐藤 薫	丸山自治会		○
11	星 清次	小山公民館	副会長	○
12	川口 久美	小山公民館		○
13	宍戸 佳子	小山公民館利用者懇談会		○
14	遠藤 秀雄	小山地区社会福祉協議会	副会長	○
15	江口 基明	小山地区社会福祉協議会		○
16	小池 美恵子	小山地区民生委員児童委員協議会		○
17	米山 恭子	青少年健全育成協議会		○
18	宮崎 良雄	防犯指導員		欠席
19	加藤 秀子	相模原交通安全協会小山支部		欠席
20	中村 悠一	向陽小学校 P T A		○
21	藤原 幸恵	小山中学校 P T A		欠席
22	松橋 真奈美	小山地域包括支援センター		欠席
23		学識経験者		

【別紙】小山地区支援案 グループワーク検討結果 (令和8年7月7日(火) 第2回小山地区まちづくり会議)

❖エリア単位(例:自治会の班)を中心とした支援 ～みんなで助け合う❤️小山地区～

区分	支援案	★意見・課題等		
		A グループ	B グループ	C グループ
1	災害時	エリア単位で安否確認 (👑生存確認のみ) ・安否確認の方法としては、マンションの場合はマグネットシートをドアへ貼るのが有効ではないか。 ・安否確認を示すための品の検討が必要(例:旗を掲示するなど)。 ・取組の周知としては、戸建て地域の場合は回覧が活用できる。 ・フローチャート等を作成すべき。支援方法を可視化することが大事である。	・安否確認を示すための品の検討が必要。自身で意思表示ができる体制がよい(例:無事の場合はタオルを玄関のドア付近に縛るなど)。ドアを叩いて確認する場合、高齢者は体力がないなどの課題があるのでは。また、安否確認を示すための品を別途作成すると、その保管の手間や紛失の恐れもあるため、誰もが自宅にあるタオルなどを活用するのがよいのではないか。	・安否確認の方法を決めることが必要(例:インターフォンを鳴らす、ノックをする、電話(繋がらない可能性はあり))。 ・安否確認後を示すための印の検討が必要(例:ドアに赤や黄色(目立つ色)の○をつける、シールを貼る、何も印がない家は未確認とする、等)。 ・安否確認後の取りまとめについて、区長や班長へ報告するなどの方法の検討が必要。班長等不在の場合の報告者も同様である。 ・安否確認体制について、地区全体で共通認識をもつ必要がある。周知方法として、小・中学校の掲示板への掲示や、「自治会加入」ののぼり旗に安否確認の方法について加えるのも有効か。
2	平常時	①エリア単位で日頃からコミュニケーション ②安否確認訓練 ・日頃からのあいさつを心掛けることは重要である。 ・防災訓練や安否確認訓練を可能な限り実施する、地域清掃等で日頃からコミュニケーションを取る必要がある。	・日頃からのコミュニケーションが大事。それをするにより、いざという時に助け合うことができる。 ・取組を周知していくことが大切である。各種会議の場を活用することは有効ではないか。 ・地区ごとに実施しやすい方法があると思うので、地区にあった方法を検討できるとよい。	・災害時の支援はもちろんのこと、事前に何ができるかが大切である。その中でもあいさつが重要である。 ・安否確認訓練を班単位で繰り返し実施することや、役割の整理が重要である。

3	集め方 (把握の方法)	自治会で使用している 既存の地図等を活用	・日頃からのコミュニケーションで、よく地域の人を観察をすることで、情報収集に繋げる。 ・支援者名簿等がある地区は、それを活用するのもよい。 ・民生委員が所有している情報を活用できるのではないか。	・小さくてもよいので、地図を活用できるとよい。 ・回覧は見ない人もいるため、自治会費の集金の機会を活用する。 ・町内清掃や、会議等で話題にすることで情報収集に繋げる。 ・班単位など、小さい単位で実施することは有効であると思う。	・地図や、回覧名簿を活用するのが有効ではないか。また、高齢者については失礼にならない程度に年代ごとに色分けをすると、支援の優先度が分かりやすいのではないか。 ・高齢者の情報は民生委員が把握しているが、活用方法の検討が必要である。
4	対象者	まずは自治会員	・自治会員のみは異論があるという意見は出たが、まずは自治会員から実施していく。	・まずは自治会員とし、非自治会員や外国籍の方は今後の検討とする。	・まずは自治会員とするが、自治会に加入していなくても、日頃からコミュニケーションが取れているのならば支援しやすいし、支援の対象としてよいのではないか。
5	母体	自治会員全員	・自治会の班単位で実施するのが有効だと思うが、班長がいなくとも実施できる体制としたい。	・自治会の班主体がよい。久保原自治会では、以前は支援担当者等を決めていたが、災害時に誰が自宅に居るか分からないため、基本的に担当制はやめた。実施できることを皆でするのがよい。	・まずは自治会員を母体とする。本支援が将来的には自治会加入のきっかけに繋がる可能性もある。
6	その他				